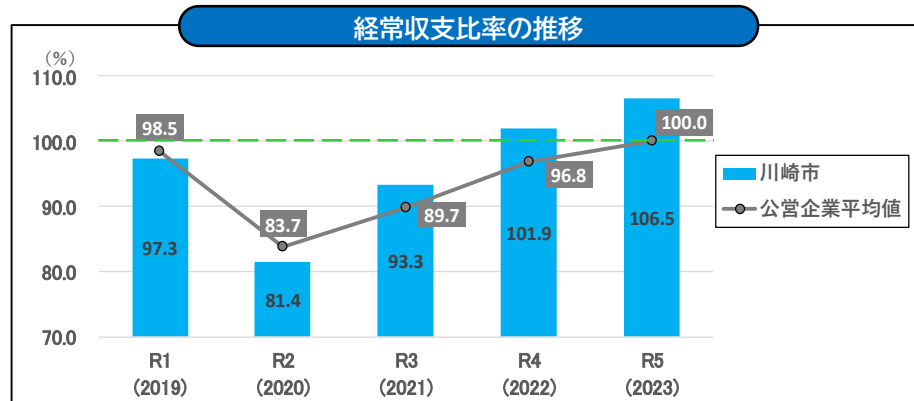


(5) 経営状況

※このページの資料は総務省の資料を基に作成

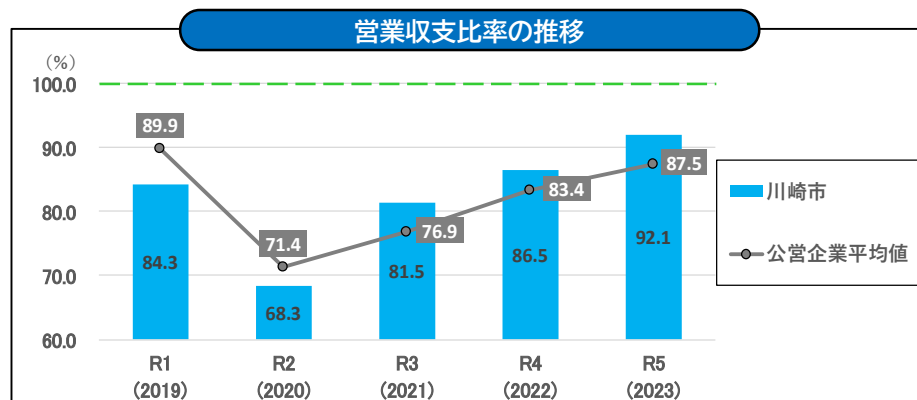
① 経常収支比率

当該年度において、経常収益(営業収益+営業外収益)で経常費用(営業費用+営業外費用)をどの程度賄えているかを表す指標です。近年は、経常収支が均衡していることを示す100%を上回っており、公営企業平均値より高い水準で推移しています。



② 営業収支比率

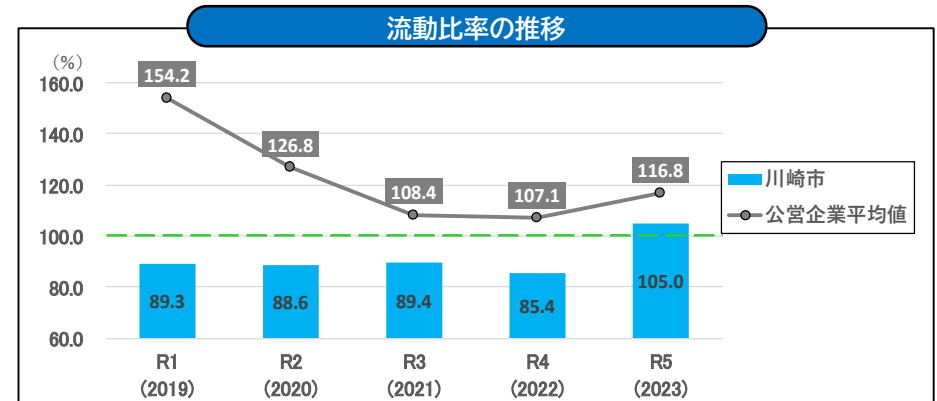
当該年度において、乗車料収入等の営業収益で人件費等の営業費用をどの程度賄えているかを表す指標です。一般会計からの適正な公共負担(営業外収益)の下で、公共施設や民営バスでは対応が難しい地域への交通手段の確保など、公共性の高い路線を運行していることなどから100%未満で推移していますが、公営企業平均値よりも高い水準で推移しています。



③ 流動比率

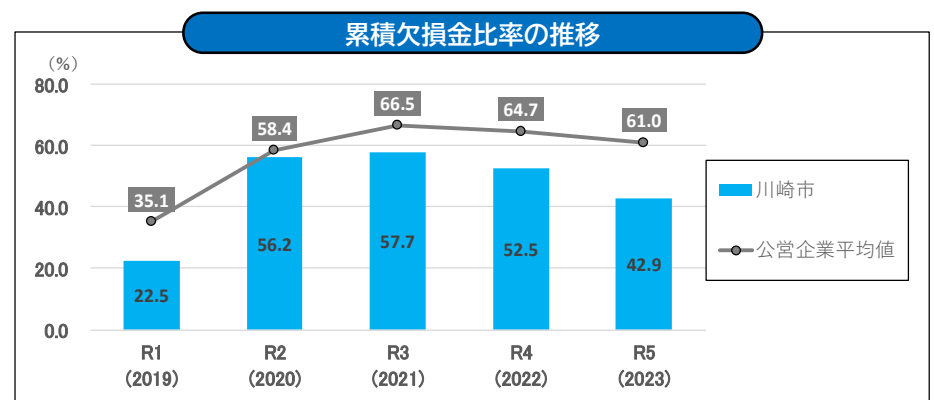
該当ページ : P. 13

当該年度において、1年以内に支払うべき債務を支払うことができる現金などがどの程度あるかを表す指標です。公営企業平均値を下回っているものの、乗車料収入の増による現金預金の増加等により、令和5(2024)年度には、指標である100%を上回ることができています。



④ 累積欠損金比率

当該年度において、事業の規模(営業収益)に対する累積欠損金の状況を表す指標です。令和2(2020)年度には、新型コロナウイルス感染症の影響により、大幅な純損失を計上し、累積欠損金比率が増加しましたが、令和4(2022)年度以降、料金改定などによる乗車料収入の増加により、純利益を確保していることから、改善傾向にあります。また、公営企業平均値と比べても低い比率で推移しています。



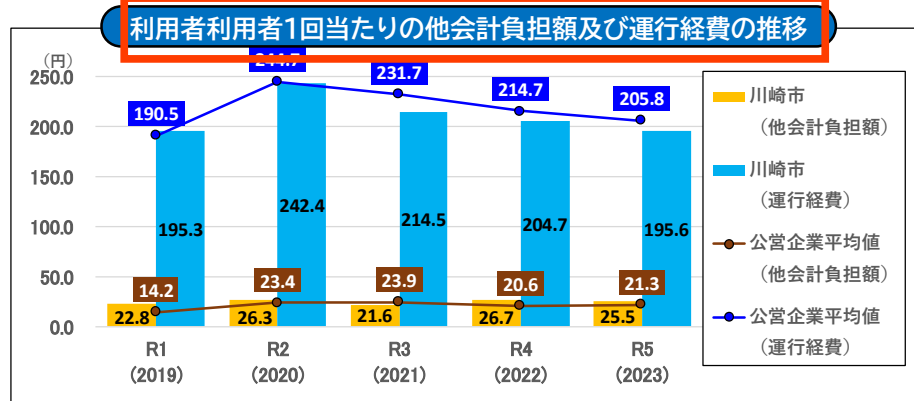
※このページの資料は総務省の資料を基に作成

(5) 経営状況

⑤ 利用者1回当たりの他会計負担額及び運行経費

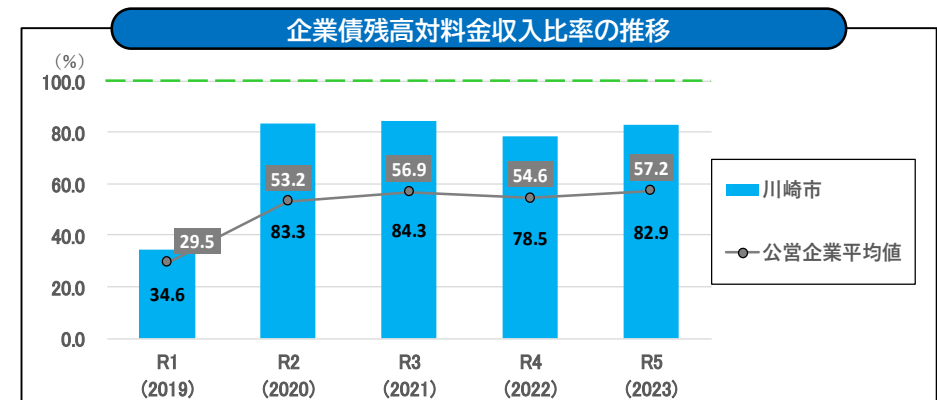
該当ページ：P.14

利用者がバスを1回利用するに当たり、他会計がどれだけ負担しているか、費用がどれだけかかっているかを表しています。利用者1回当たりの運行経費については、公営企業平均値と比較して低い水準で推移しているものの、他会計負担額については、公共施設や民営バスでは対応が難しい地域への交通手段の確保など、公共性の高い路線を運行していることなどから、公営企業平均値と比較して高い比率で推移しています。



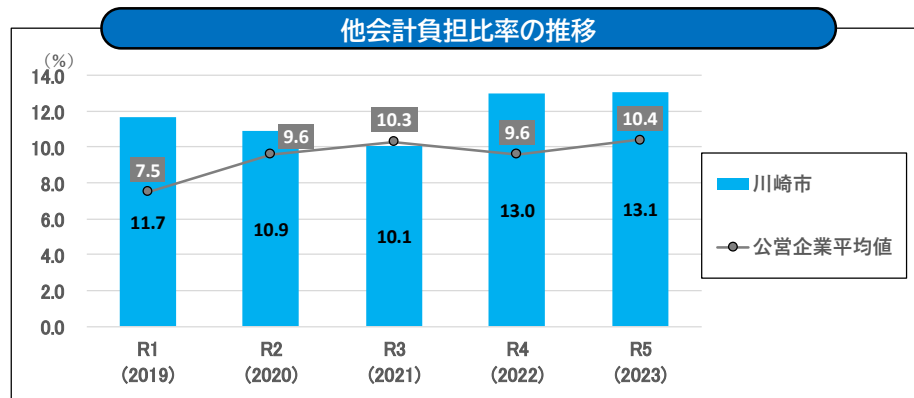
⑦ 企業債残高対料金収入比率

料金収入に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表しています。新型コロナウイルス感染症の影響による減収への対応として特別減収対策企業債を発行したこと、バス車両の更新台数の増加などにより企業債残高が増加したことから、公営企業平均値と比較して高い比率で推移しています。



⑥ 他会計負担比率

経常費用が一般会計等の他会計の負担によってどの程度賄われているか表しています。利用者1回当たりの他会計負担額と同様に、一般会計からの適正な公共負担の下で、公共性の高い路線を運行していることなどから、公営企業平均値と比較して高い比率で推移しています。



⑧ 有形固定資産減価償却率

有形固定資産のうち車両や建物、構築物など償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるか表しています。バス車両の更新台数が増加しているなど、償却対象資産の更新が進んでいることから、公営企業平均値よりも下回って推移しています。

